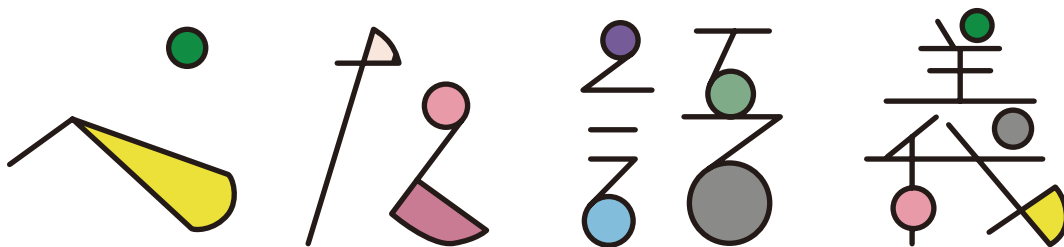


ぺた語義：新型コロナウイルスと中高生情報学研究 コンテスト

著者	中山 泰一
雑誌名	情報処理
巻	61
号	7
ページ	735-735
発行年	2020-06-15
URL	http://id.nii.ac.jp/1438/00009524/



Vol. 106

CONTENTS

【コラム】新型コロナウイルスと中高生情報学研究コンテスト…中山 泰一

【解説】教科「情報」・情報教育の担当者としてカリキュラム・マネジメントに参画する…田崎 丈晴

【解説】スリランカの初等中等情報教育…和田 勉

COLUMN

新型コロナウイルスと 中高生情報学研究コンテスト



本年（2020年）3月7日、本会第82回全国大会にて、第2回中高生情報学研究コンテストの審査を行いました。全国から60チームの参加があり、中高生研究賞の最優秀賞1チーム、優秀賞2チーム、奨励賞・情報処理教育委員会委員長賞1チーム、奨励賞・初等中等教育委員会委員長賞1チーム、奨励賞10チーム、入選16チームを選出しました。中学生の活躍が目覚ましく、最優秀賞は中学生、上位15チームのうち6チームが中学生でした。詳細は、中高生情報学研究コンテストのページ（https://www.ipsj.or.jp/event/event_chukousei.html）をご覧ください。

第2回中高生情報学研究コンテストは無事に実施されました。このコラムはその第一報です。コラムの執筆をお受けしたのは2月16日、本会誌編集委員会と初等中等教育委員会の担当者間で打ち合わせして、今号で第一報を掲載し、次号（2020年8月号）の特集「中高生の情報教育に関する支援活動—第82回全国大会を中心に—」につなげると決めたのでした。次号の特集もぜひご覧ください。

2月16日の打合せ時点で、第82回全国大会は金沢工業大学で開催、中高生情報学研究コンテストも同大学での開催で進めていました。ところが急転直下、翌17日には日本物理学会が新型コロナウイルス対策で同学会第75回年次大会のJr.セッション中止を発表、本会でも中高生を金沢に集めていいのかという慎重意見が強くなります。

日々状況は悪くなっていき、2月20日に本会全国大会運営委員会が緊急の会議を開催、翌21日に現地開催を中止してオンライン実施を進めると発表しました。第82回全国大会の一般セッションと学生セッションはZoomを使って、前号（2020年6月号）に掲載された「先生、質問です！」はclusterを使って、リアルタイムでの実施になりました。

中高生情報学研究コンテストでは、参加チームにポスターPDFと400字の説明テキストの提出を求め、それらをWebページに掲載する方式にしました。本会の各種委員にそれぞれの研究へのコメントを寄せてもらい、そのコメントも掲載しました。講評と審査結果はYouTubeのIPSJチャンネルを使って配信しました。この方式にしたのは、Zoomなどのリアルタイムの会議システムを使えない場合を心配してでしたが、2月27日には内閣総理大臣の休校要請があり中高生は学校に行けなくなりましたから、適切な方式だったようです。

さて、私は本会初等中等教育委員会副委員長を4年間務め、2018年度と2019年度は中高生情報学研究コンテストを担当しました。今年度、本会理事に選出いただきました。これからも本会の教育・人材育成の活動を推進していきたいと考えております。

中山泰一(本会教育担当理事/電気通信大学)

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno